

論文審査の結果の要旨および担当者	
学位申請者	大東 真菜
論文担当者	主査 若林 一郎
	副査 鈴木 敬一郎
	副査 木村 卓
学位論文名	Association of time in range with hemoglobin A1c, glycated albumin and 1,5-anhydro-D-glucitol (理想血糖時間と HbA1c, GA, 1,5-AG との関連)
<p style="text-align: center;">論文審査の結果の要旨</p> <p>近年糖尿病患者の血糖管理に持続グルコースモニター(CGM)がよく用いられる。本研究では、CGM における新規の指標と従来の血糖管理指標である hemoglobin A1c (HbA1c)、glycated albumin (GA)、1,5-anhydro-D-glucitol (1,5-AG)について、糖尿病の各病型で比較検討した。</p> <p>1型糖尿病、2型糖尿病、耐糖能異常の症例を対象とし、CGM で 70~180 mg/dL の血糖値を示した時間の割合 (Time in range, TIR)、180 mg/dL 以上の血糖値を示した時間の割合 (Time above range, TAR)、70 mg/dL 未満の血糖値を示した時間の割合 (Time below range, TBR)をそれぞれ算出した。HbA1c と GA は、1型糖尿病では2型糖尿病および耐糖能異常に比較して高値であった。1,5-AG は、1型糖尿病では2型糖尿病および耐糖能異常よりも低値であった。TIR は、1型糖尿病では2型糖尿病および耐糖能異常よりも低値であった。TIR >70%の症例の割合は、耐糖能異常では 100%であったが、これと比較して2型糖尿病、1型糖尿病の順に低値を示した。TAR は、1型糖尿病では2型糖尿病および耐糖能異常よりも有意に高値であった。TBR は、1型糖尿病では2型糖尿病よりも高値であったが、耐糖能異常とは有意な差を認めなかった。線形回帰分析により TIR 70%から予測される HbA1c、GA、1,5-AG をそれぞれ求めたところ、HbA1c は1型と2型の糖尿病で同程度であったが、GA と 1,5-AG は、1型と2型の糖尿病で異なる可能性が示唆された。</p> <p>本研究では、CGM における3つの指標が糖尿病の病型により異なることを示すとともに、これらの指標と従来の血糖管理指標との関係を病型別に比較検討した初めて研究である。これらの結果は糖尿病患者のより精密な血糖管理に有用であり、大きな臨床的意義がある。よって本研究は学位授与に値するものと判断した。</p>	